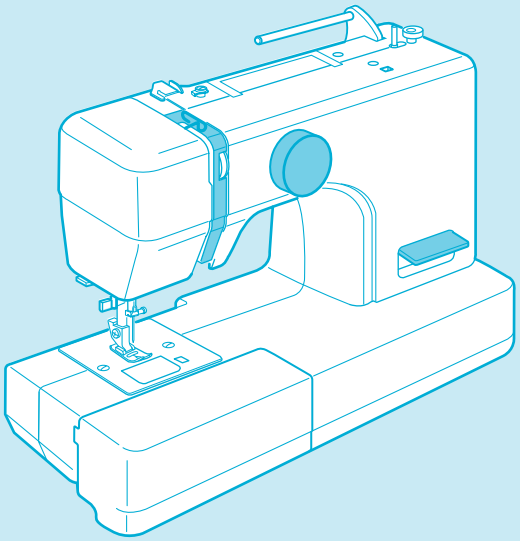
取扱説明書



JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになる人や他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになったあとは、お使いになる人がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示	⚠ 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠ 注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味	
	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

⚠ 警告　感電・火災の原因になります。

 禁　止	ストーブ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5℃～ 35℃です。
 禁　止	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
 禁　止	電源コードやフットコントローラーのコードを傷つけたり、加工したり、はさみ込んだり、たばねたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、重い物をのせたり、高温部に近づけたりしないでください。 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
 必ず実行	一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。
 必ず実行	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
 必ず電源プラグを抜く	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因になります。

 分解禁止	分解はしないでください。
 接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
 禁　止	ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
 禁　止	曲がった針や先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因になります。

 禁　止	ミシンの通風口はふさがないでください。
 禁　止	フットコントローラーの上に物をのせないでください。 また、ご使用の際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
 注　意	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
 必ず実行	ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。
 必ず実行	プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
 必ず実行	針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
 必ず実行	電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
 必ず実行	以下のことを行うときは、必ず電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
 必ず電源プラグを抜く	以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板を交換するとき
 必ず電源プラグを抜く	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

目　次

お使いになる前に

●お取り扱いについてのお願い 2

各部の名まえと標準付属

●各部の名まえ 3
●標準付属品 4
●糸立て棒の取り付け方 4

操作方法

●補助テーブルの外し方・付け方 5
●フリーアームの使い方 5
●電源のつなぎ方 6
●速さの調節 6
●返しぬいレバー 7
●送り歯のあげ方・さげ方 7
●押さえのあげ方・さげ方 7
●押さえの外し方・付け方 8
●押さえホルダーの外し方・付け方 8
●針の取かえ方 9
●布に適した糸や針を選ぶ目安 9
●下糸の準備 ..... 10 ～ 12
★糸こまの取り付け 10
★ボビンの取り出し 10
★ボビンに下糸を巻く 11
★ボビンの内がまセット 12
●上糸の準備 ..... 13 ～ 15
★上糸のかけ方 13
★糸通しの使い方 14
★下糸の引きあげ方 15
●模様の選び方 15
●糸調子の合わせ方 16

実用ぬい

●直線ぬい 17
★ぬい始め 17
★ぬい方向の変更 17
★ぬい終わり 17
●針板ガイドラインの使い方 18
★コーナーリングガイドの使い方 18
●ジグザグぬい 18
●ジグザグぬいのたち目かがり 19
●トリコットぬいのたち目かがり 19
●ボタンホール 20
●芯入りボタンホール 21
●まつりぬい 22

飾りぬい

●アップリケ 23
●飾りぬい 23
●シェルタック 24
●パッチワーク 24

ミシンのお手入れ

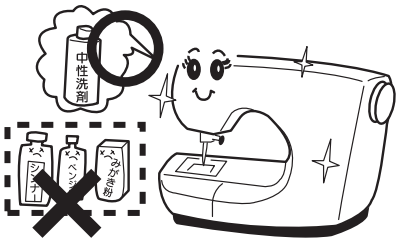
●かまと送り歯の掃除 25
●内がまと針板の組み付け 26
●ランプの交換 26

ミシンの調子が悪いときの直し方 27

お使いになる前に

●お取り扱いについてのお願い

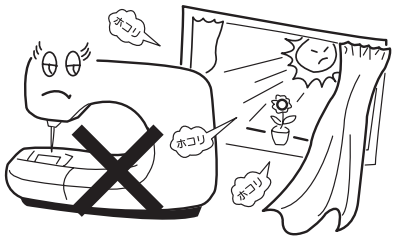
◇ ご使用の前に



① ぬう布を汚さないようにするため、針板付近の油やほこりなどの汚れを、乾いたやわらかい布で十分にふき取ってください。
試しぬいをして、布が汚れないことを確認してから使用してください。

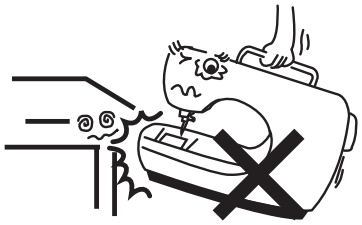
② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

◇ いつまでもご愛用いただくために



① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところは避けてください。



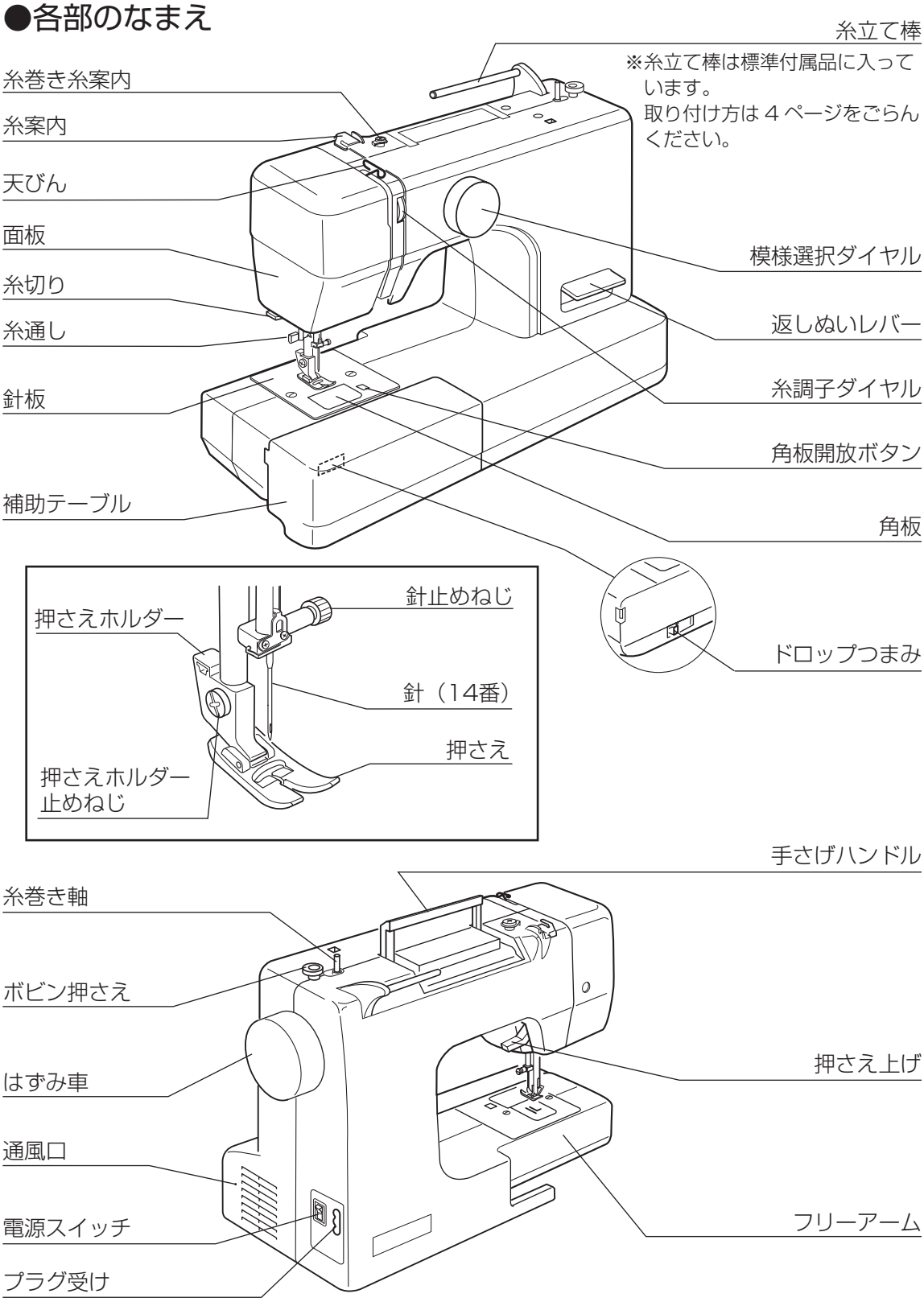
③ 落としたり、ぶつけたりするなど衝撃を与えないでください。
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたりしたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（27ページ）により点検・調整を行ってください。

各部のなまえと標準付属

●各部のなまえ



※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
※ ミシンを持つときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

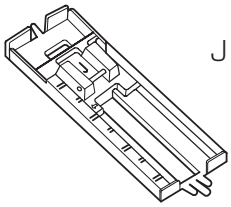
●標準付属品（補助テーブルの付属品収納場所※に入っています。）



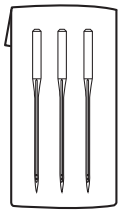
A：基本押さえ
※A：基本押さえはミシンに付いています。



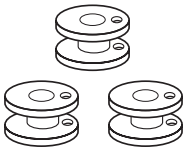
C：たち目かがり押さえ



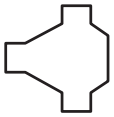
J：ボタンホール押さえ



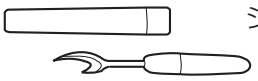
針（HA×1）
14 番針：3 本



ボビン
※1個はミシンの内がまに入っています。



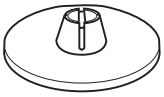
ドライバー



シームリッパー

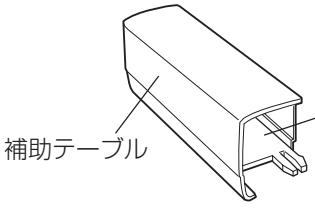


糸立て棒

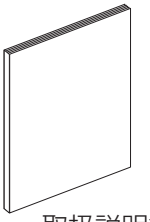


糸こま押さえ（大）

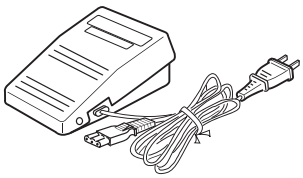
※付属品収納場所



補助テーブルの外し方は
5ページ参照。

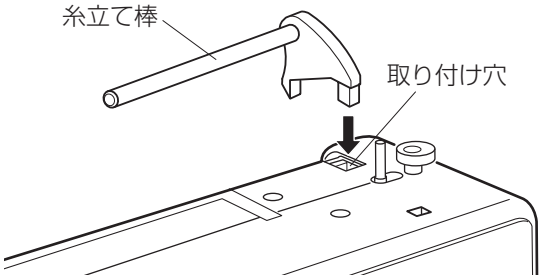


取扱説明書



フットコントローラー

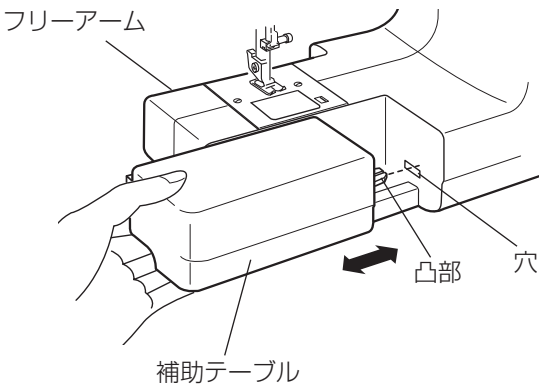
● 糸立て棒の取り付け方



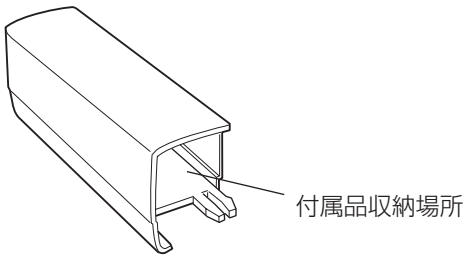
糸立て棒を取り付け穴に差し込んで取り付けます。

操作方法

●補助テーブルの外し方・付け方

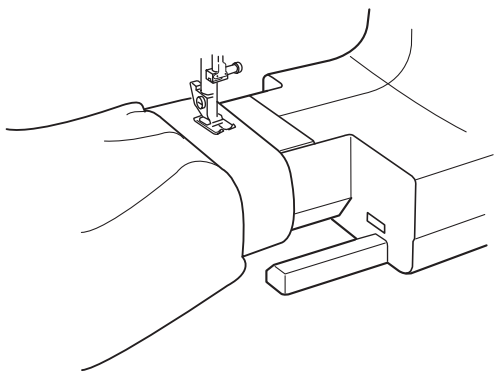


補助テーブルの下側に手をかけて、横に引いて外します。
補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそわせ、補助テーブル凸部を穴に入れて取り付けます。



（付属品収納場所）
押さえなどの小物は、補助テーブルに収納できます。

●フリーアームの使い方

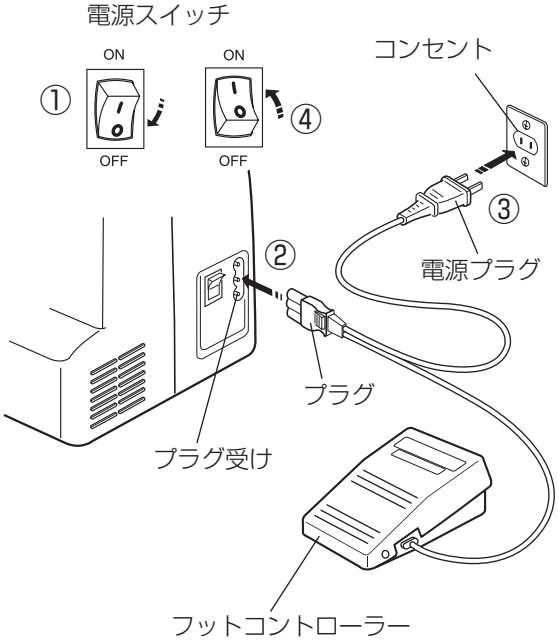


補助テーブルを外すと、フリーアームになります。
そでぐちやすそなどのぬい、およびふくろ物の口端の始末に利用します。

●電源のつなぎ方

⚠ 警告

・電源は、一般家庭用交流電源 100 V で使用してください。
・ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電、火災の原因となります。
・電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
ほこりなどが付着していると湿気などにより、絶縁不良となり火災の原因となります。



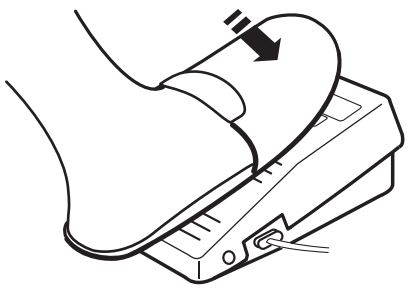
① 電源スイッチを「OFF」にします。

② プラグをプラグ受けに差し込みます。

③ 電源プラグをコンセントに差し込みます。

④ 電源スイッチを「ON」にします。

●速さの調節



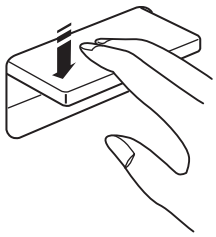
フットコントローラーは、深くふみ込むほど速くなります。

※フットコントローラーをふみ込んでもミシンが動かない場合は、もう一度電源を入れなおして、フットコントローラーをゆっくりふみ込んでください。

⚠ 注意

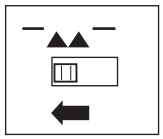
- フットコントローラーの上に物を置かないでください。
けがや故障の原因となります。
- フットコントローラーを使用するとき、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
動作不良を起こし、けが・故障の原因となります。

●返しぬいレバー

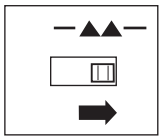


ミシンを動かしている途中で返しぬいレバーを押すと、押しているあいだはミシンは返しぬいをし、手をはなすと前進ぬいにもどります。

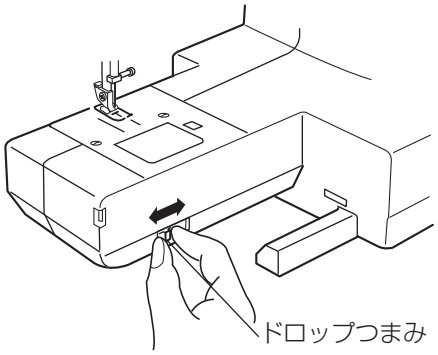
●送り歯のあげ方・さげ方



送り歯をさげる位置



送り歯をあげる位置

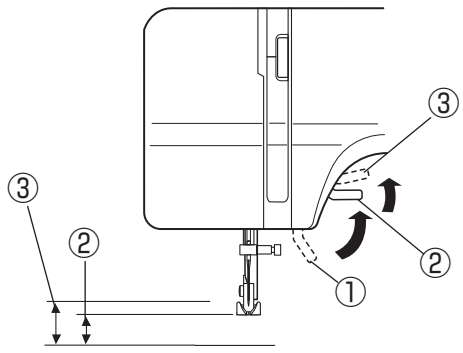


送り歯をさげるときには、ドロップつまみを動かし、さげる位置にセットします。
手ではずみ車を手前にまわし、送り歯がさがっていることを確認してください。



※ぬいが終わったら、ドロップつまみをあげる位置にセットします。
手ではずみ車を手前にまわし、送り歯があがっていることを確認します。

●押さえのあげ方・さげ方



押さえ上げで、押さえのあげさげを行います。
普通にあげた位置よりさらにあげることもでき、厚い布を入れるときに使用します。

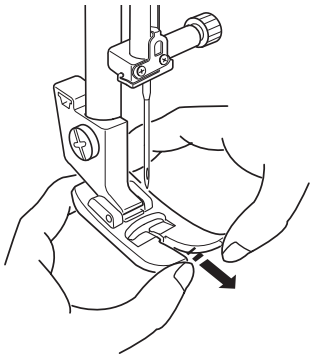
① 押さえ上げをさげた位置
・・・ぬいのときは、さげておきます。

② 押さえ上げを普通にあげた位置
・・・布の取り出しや、押さえの交換のときにあげます。

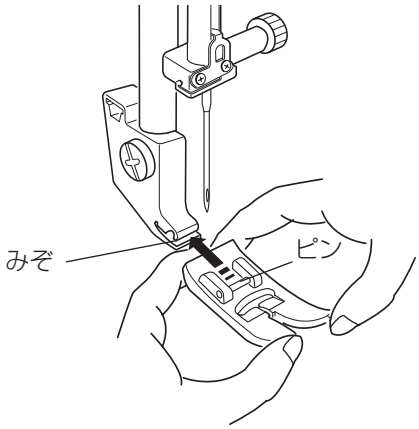
③ 押さえ上げを普通にあげた位置よりさらにあげた位置（固定することはできません。）
・・・厚い布などが入れやすくなります。

●押さえの外し方・付け方

①



②



⚠ 注意

押さえの取りかえは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

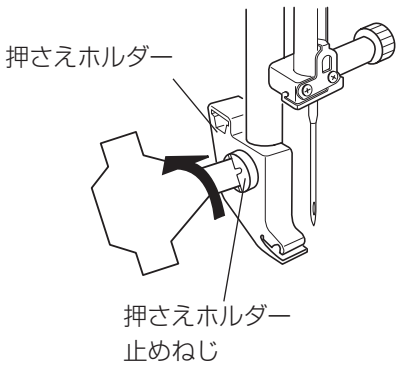
① はずみ車を手で手前にまわし、針をいちばん上にあげます。
押さえ上げをあげ、押さえの両側を持ち、うしろ側から手前に押さえを引いて、押さえを外します。

※ 押さえ上げのあげ方は、7ページをごらんください。

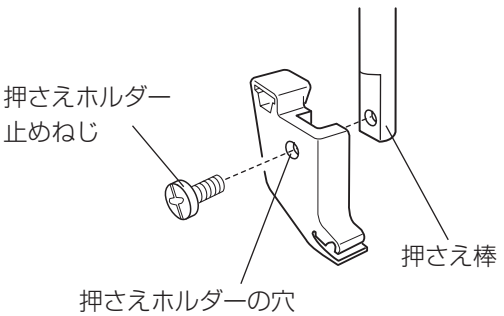
② 押さえの両側を持ち、押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、手前からうしろ側に押して、押さえを取り付けます。

●押さえホルダーの外し方・付け方

①



②



⚠ 注意

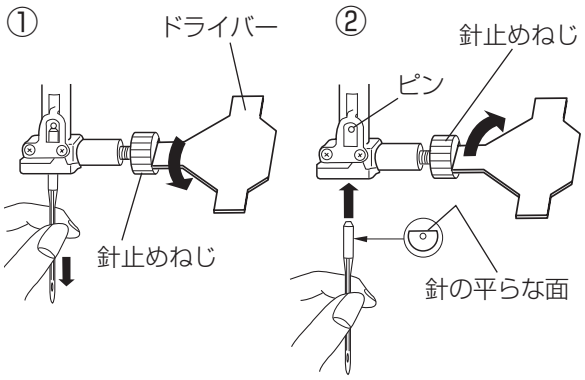
押さえホルダーを外すときや、付けるときには、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

※ミシンのお手入れをするときなどに押さえホルダーを外します。

① 押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

② 押さえホルダー止めねじを押さえホルダーの穴に入れ、押さえ棒に押さえホルダー止めねじを右にまわし、取り付けます。

●針の取りかえ方

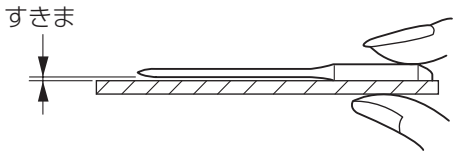


⚠ 注意

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。けがの原因となります。

① 針止めねじを手前に 1 ～ 2 回まわしてゆるめ、針を外します。

② 針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをしっかりしめます。



針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。
針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

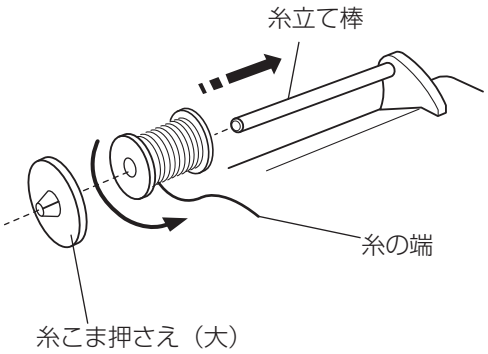
※ 針は必ず、家庭用ミシン針（HA×1）を使用してください。

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9番～11番、 ジャノメブルー針 （オプション）
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	綿　糸 60 番 ポリエステル、ナイロン 50 番～ 90 番	11番～14番 ジャノメブルー針 （オプション）
		綿　糸 50 番	14 番
厚い布	デニム ジャージー コート地	綿　糸 40 番～ 50 番 ポリエステル 40 番～ 50 番	14 番～ 16 番
		ポリエステル 30 番 綿　糸 30 番	16 番

※　一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。
　　この表を目安に針と糸を選び、ぬいたい布のはぎれを使って試しぬいをしてください。
※　原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。
※　伸縮性のある布（ジャージー、トリコットなど）で目とびしやすい布地には、ジャノメブルー針（オプション）を使用すると、目とびの防止効果があります。

●下糸の準備

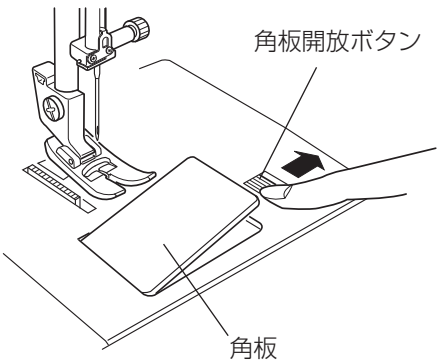
★糸こまの取り付け



糸立て棒に糸の端が下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえ（大）で糸こまを押さえます。

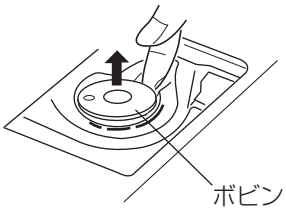
★ボビンの取り出し

①



① 角板開放ボタンを右にずらして角板を外します。

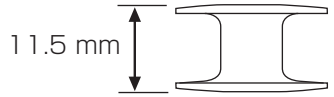
②



② ボビンを取り出します。

お願い

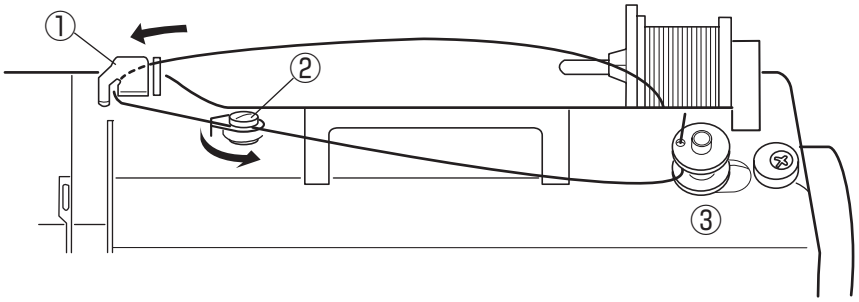
ボビンは当社専用のプラスチックボビンを使用してください。
（お買い上げの販売店へご相談ください。）



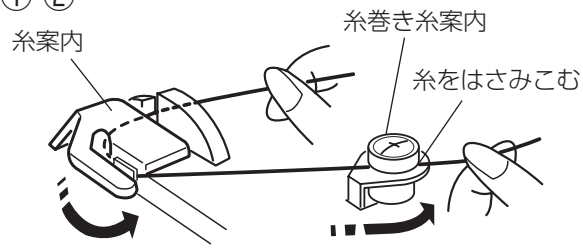
（実物大）

金属ボビンは使用しないでください。
かまにマグネットを使用しているので、糸調子が出なかったり、故障の原因となります。

★ボビンに下糸を巻く



① ②

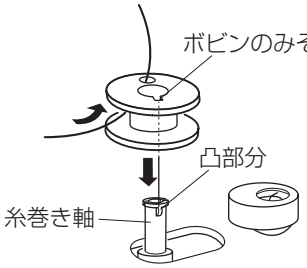


※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

① 糸こま側の糸を軽く押さえ、糸案内に向こう側からかけ、手前に出します。

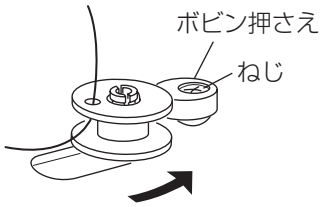
② 糸巻き糸案内に糸をしっかりはさみこむように糸をかけます。

③



③ ボビンの穴に内側から糸を通します。
糸巻き軸の凸部分とボビンのみぞが合うように、糸巻き軸にボビンを差し込みます。

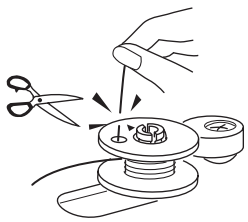
④



④ ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。

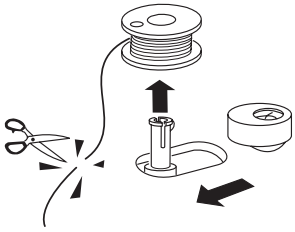
※ ボビン押さえのねじは、ゆるめないでください。

⑤



⑤ 糸の端をつまんだまま、ミシンをスタートさせて巻き始めます。
ボビンに糸を約3秒間ほど巻き付けたらミシンを止めて、穴の近くでつまんでいる糸を切ります。

⑥



⑥ 再びミシンをスタートさせ、巻き終わったらミシンを止めます。
糸巻き軸をもとにもどし、ボビンを外して糸を切ります。

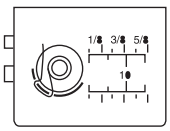
※ 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

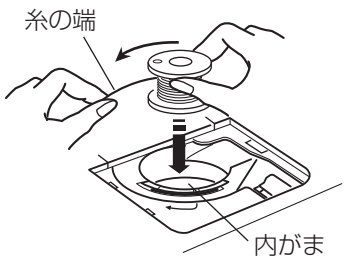
★ボビンの内がまセット

> **⚠ 注意**
> ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。
> けがの原因となります。

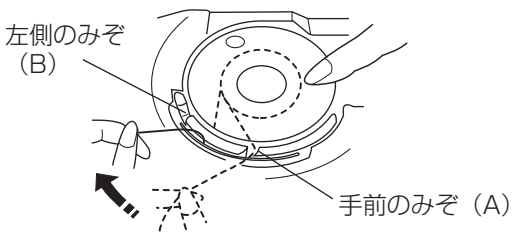
① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

※ 角板にボビンから引き出される糸の図を表示しています。

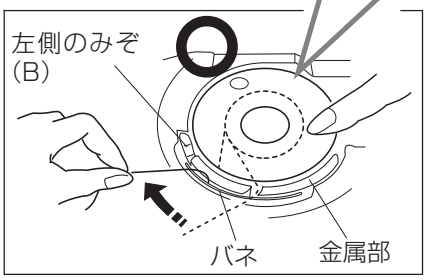


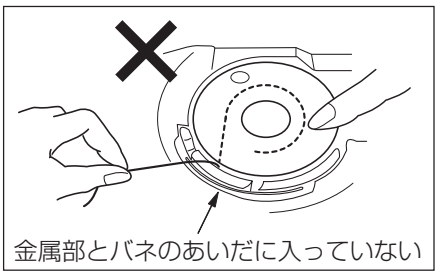
① 

② 糸の端を引きながら、手前のみぞ（A）にかけます。
糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞ（B）のところに出します。

② 

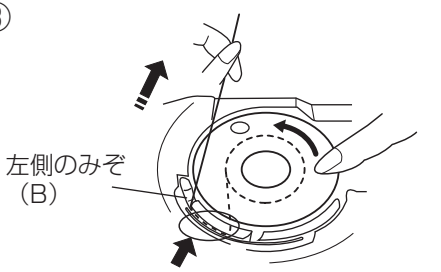
※糸をかけるときはボビンが回転しないように指で押さえてください。





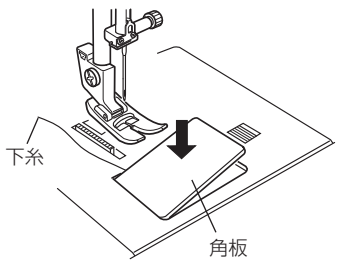
③ 糸を左側のみぞ（B）にかけるように、向こう側に出します。

※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。

③ 

※この部分に糸が入っていること

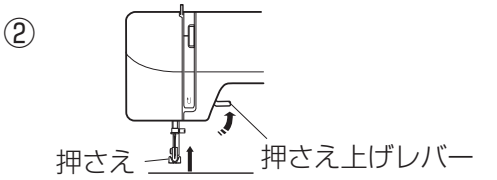
④ 下糸は、10 cm くらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

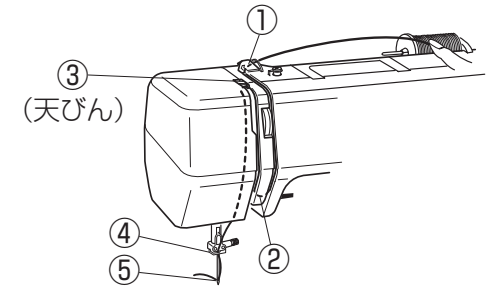
④ 

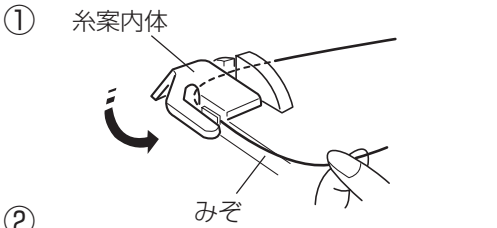
●上糸の準備

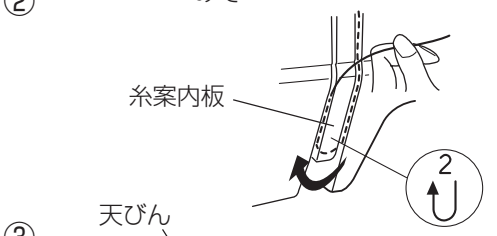
★上糸のかけ方

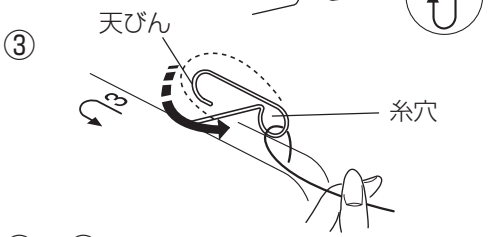


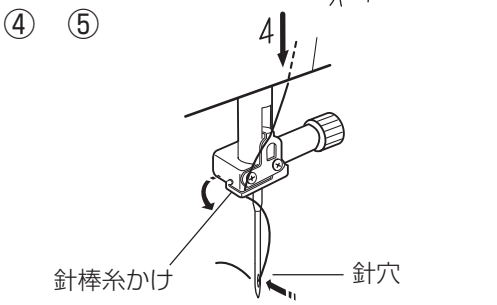












⚠ 注意

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

（手順1）※重要※

① はずみ車を手前にまわして、天びんをいちばん上に出します。

② 押さえ上げレバーをあげ、押さえをあげます。

※押さえがあがった状態で上糸をかけないと、糸がらみの原因となります。

（手順2）

① 糸こま側の糸を軽く押さえ、糸案内体の下に巻きつけるようにかけ、みぞにそって手前に引き出します。

② 糸案内板にそっておろし、下をまわして左上に引きあげます。

③ 糸こま側の糸を押さえ、天びんの右からうしろをまわして左に出し、糸穴に入れます。
手前に引き出してまっすぐ下におろします。

※ 糸を糸穴にしっかり入れてください。

④ 針棒糸かけに左からかけます。

⑤ 針穴へ手前側からうしろ側へ糸を通します。

※ 糸通し器の使い方は、14 ページをごらんください。

★糸通しの使い方

⚠ 注意

糸通しを使用するときは、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

※ 針は家庭用ミシン針（HA×1）の11 番～16 番、糸は 50 番～ 90 番 が使用できます。

① 上糸かけのときに針をあげた状態のまま、糸通しをいちばん下までさげ、保持します。

② 糸通しを矢印方向（A）へまわし、フックを針穴に入れます。
糸をガイド（B）の左側から下にまわし、ガイド（C）のくぼみに下からそわせながらフックにかけます。

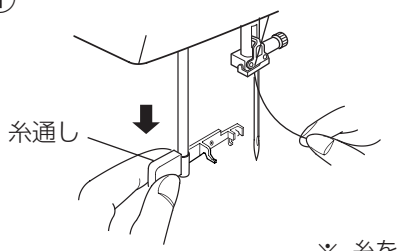
※ 右手に持っている糸は、ガイドとフックのあいだの糸がたるまない程度に軽く持ちあげてください。

③ 糸通しを矢印方向（D）へまわすと、フックにかけた糸が、針穴の後ろから輪になって出てきます。糸が出てきたら、右手に持っていた糸をはなしてください。

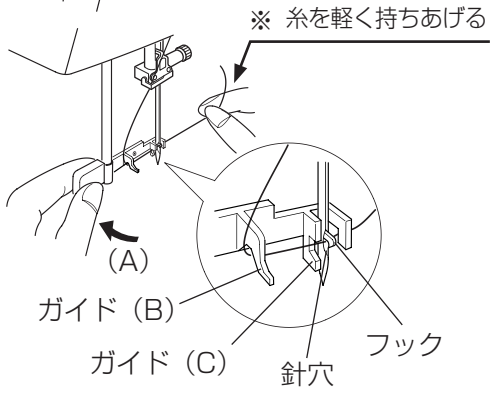
④ 糸通しを静かに押しあげ、糸の輪を引きあげます。

⑤ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に引いて、針穴から糸の輪を引き出します。

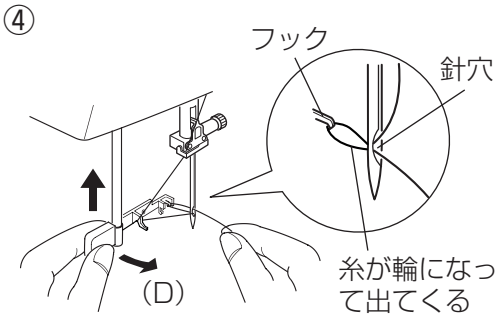
①



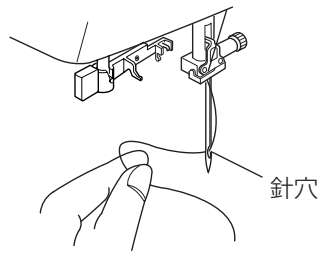
②



③ ④

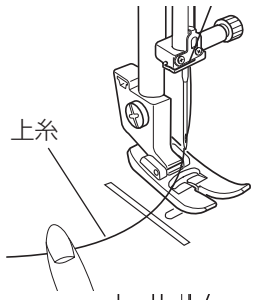


⑤



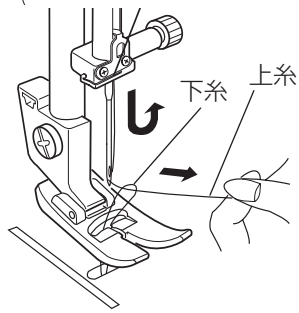
★下糸の引きあげ方

①



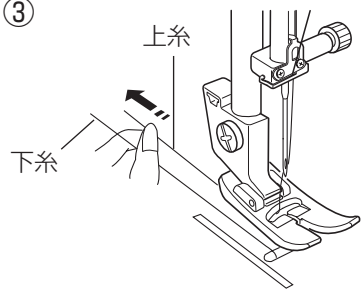
① 押さえ上げをあげ、上糸の端を指で押さえておきます。

②



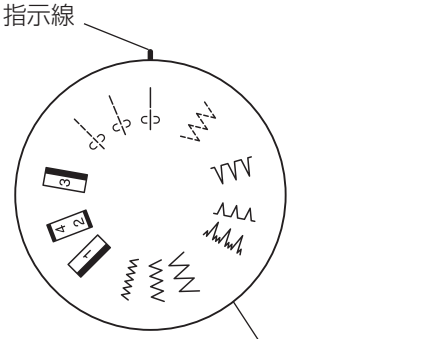
② はずみ車を手前に 1 回転させ、上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

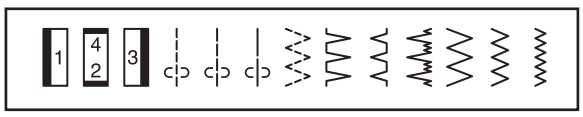
③



③ 上糸と下糸を押さえの下にして、うしろへそろえて 10 cm くらい出します。

●模様の選び方



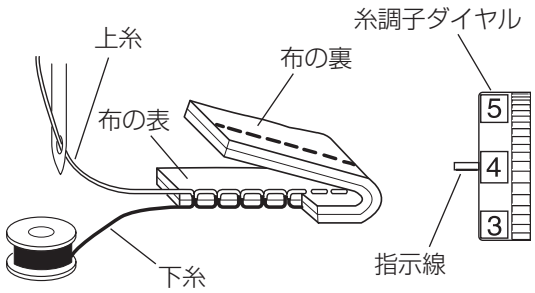


手ではずみ車を手前にまわし、針をあげます。
模様選択ダイヤルをまわし、選んだ模様を指示線に合わせます。

※ 針が布にささったままで、模様選択ダイヤルをまわすと、針が曲がったり、折れたりする原因となります。
必ず、針はあげた状態で模様を選んでください。

●糸調子の合わせ方

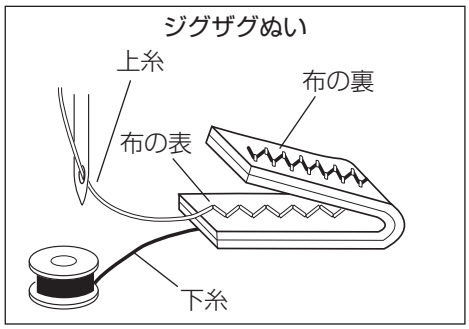
【1】



糸調子は特殊なぬい以外は、糸調子ダイヤル「4」を指示線に合わせてぬいます。
糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルをまわして上糸と下糸のまじわる位置を調節します。

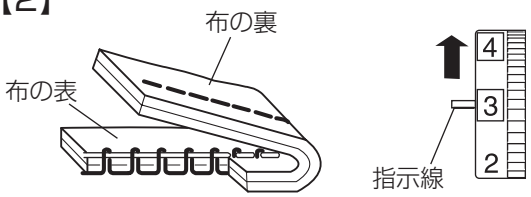
【1】バランスのとれた糸調子

直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。



ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

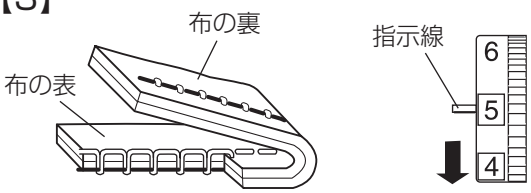
【2】



【2】上糸が強すぎるとき

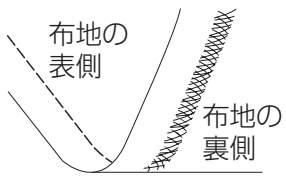
※ 下糸が布の表に出ます。
糸調子ダイヤルをまわし、小さな数字を指示線に合わせます。

【3】



【3】上糸が弱すぎるとき

※ 上糸が布の裏に出ます。
糸調子ダイヤルをまわし、大きな数字を指示線に合わせます。



《布地の裏側がタオル地のようになるのは》

左図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようになるのは上糸の調子が弱いか、上糸のかけかたがまちがっています。13ページをごらんの上、正しくかけ直してください。
また、上糸調子の調節のしかたは上図を参考にしてください。

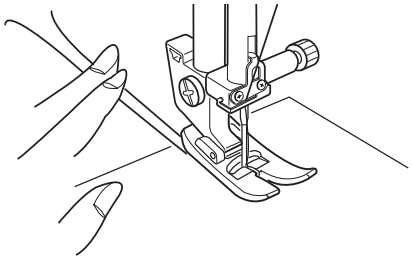
実用ぬい

●直線ぬい

ミシンのセット

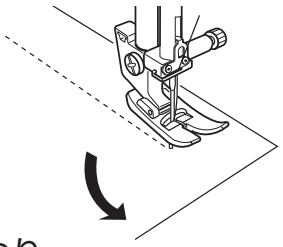
模様	押さえ	糸調子
細かい直線　標準直線　あらい直線	A：基本押さえ	2 ～ 6

★ぬい始め



① 上糸と下糸を押さえの下を通し、向こう側に引き出した状態で布を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手で手前にまわしてぬい始めの位置に針をさします。
② 押さえ上げをさげてぬい始めます。
※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

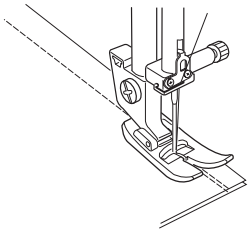
★ぬい方向の変更



① 布の方向をかえる位置まできたらミシンを止めます。
② はずみ車を手で手前にまわして針を布にさし、押さえ上げをあげます。
③ 針を布にさしたままぬい方向をかえ、押さえ上げをさげてぬい始めます。

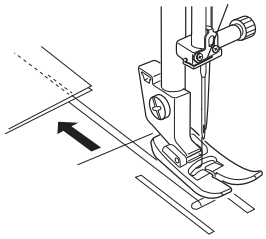
★ぬい終わり

①



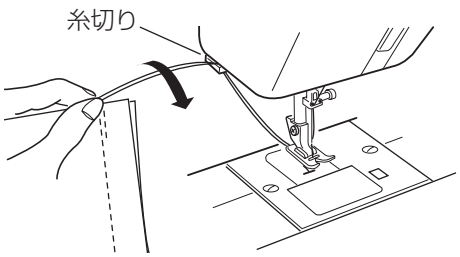
① 返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

②



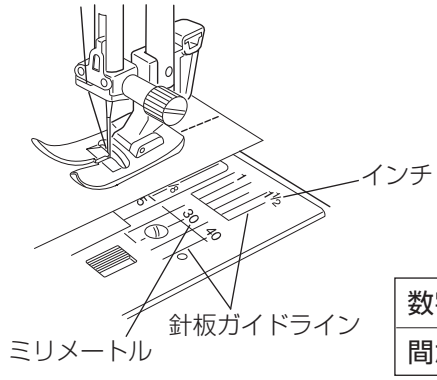
② 押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

③



③ 布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

●針板ガイドラインの使い方

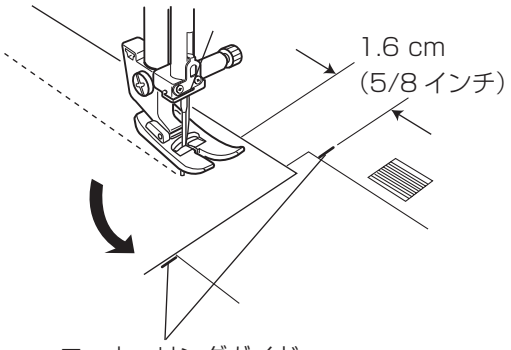


針板には、布のぬい位置を決めるための便利なガイドラインを表示しています。

ガイドラインの数字は、針穴中央（ぬい位置）からの距離を「ミリメートル」と「インチ」で表示していて、布端をガイドラインに合わせてぬうと、ぬい幅がそろいます。

数字	3/8	1/2	5/8	1	1 1/2	10	15	30	40
間かく（cm）	0.95	1.27	1.60	2.54	3.81	1.0	1.5	3.0	4.0

★コーナーリングガイドの使い方



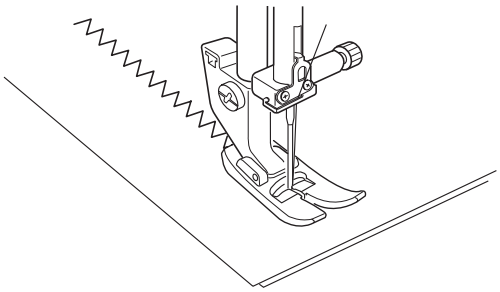
布端から 1.6 cm（5/8 インチ）のところで直角にぬい方向をかえるときに使います。

① 布端がコーナーリングガイドのところにきたらミシンを止め、はずみ車を手で手前にまわして針を布にさします。
② 押さえ上げをあげ、布を直角に回転させます。布端が針板右側のガイドライン 1.6 cm（5/8 インチ）の位置に合います。
③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートさせます。

●ジグザグぬい

ミシンのセット

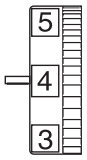
模様			押さえ		糸調子
幅大 ジグザグ	幅中 ジグザグ	幅小 ジグザグ	A：基本押さえ		1 ～ 5

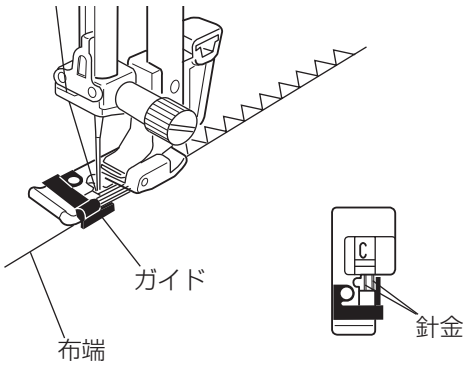


アップリケや飾りぬいなどに使用します。
伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には伸びにくい芯地を貼るときれいにぬえます。

●ジグザグぬいのたち目かがり

ミシンのセット

模様	押さえ	糸調子
		
幅大 ジグザグ	C：たち目かがり 押さえ	3 ～ 7



布端のほつれ止めとして広く使用します。
布端をたち目かがり押さえのガイドにあててぬいます。

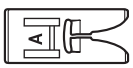
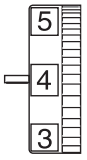
⚠ 注意

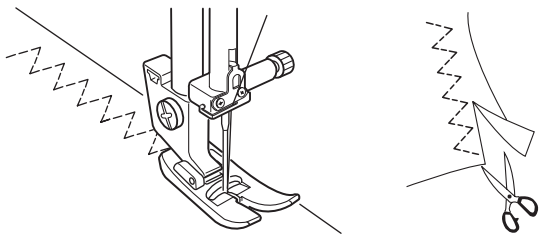
模様は「 」を使用します。
幅大ジグザグ

押さえの針金に針があたらないことを確認してください。けがの原因となります。

●トリコットぬいのたち目かがり

ミシンのセット

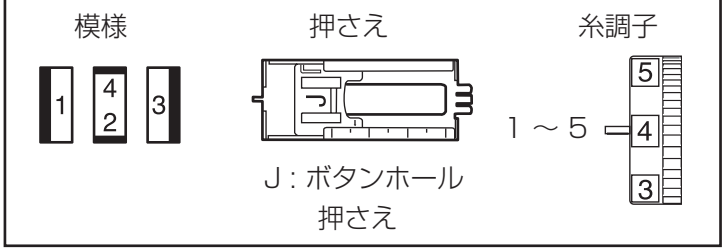
模様	押さえ	糸調子
		
	A：基本押さえ	3 ～ 6



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに使用します。
ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

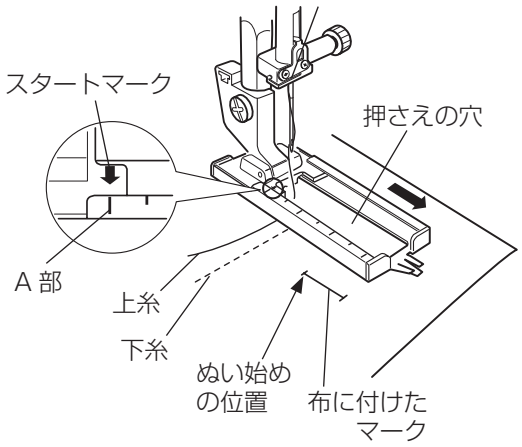
●ボタンホール

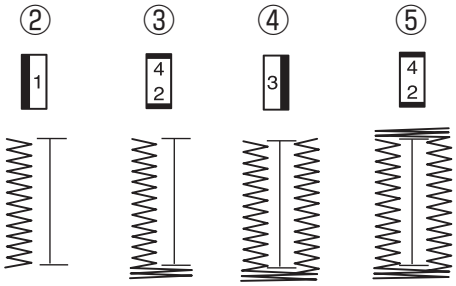
ミシンのセット



※ 伸縮性のある布は、伸びないように裏に芯地を貼ってください。
※ 使用する布の切れ端などで試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。
※ ボタンホールをぬう場所に、必ずマーク（しるし）を付けてください。

①





① 模様 [1] を選びます。
上糸を押さえの穴から通して下糸と一緒に横にそろえておきます。
押さえを手前に引きスタートマークを A 部の目盛りに合わせます。

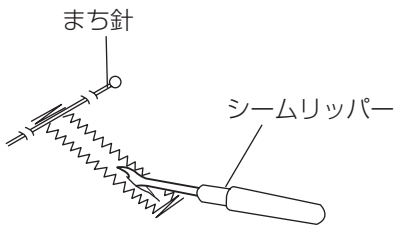
② ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげてミシンをスタートし必要な長さまでぬってミシンを止めます。

③ 針をあげて模様 [4 2] を選びます。
かんぬきを 5 針くらいぬって、ミシンを止めます。

④ 針をあげて模様 [3] を選びます。
左側と同じくらいぬって、ミシンを止めます。

⑤ 針をあげて模様 [4 2] を選びます。
かんぬきを 5 針くらいぬって、ミシンを止めます。

⑥ ⑦

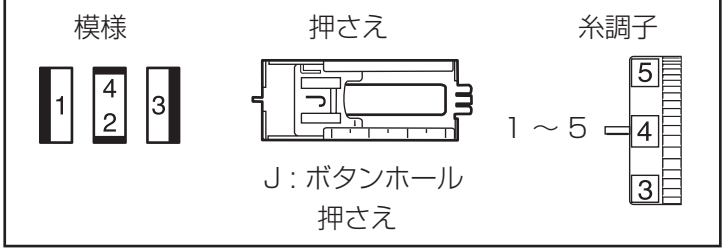


⑥ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を10 cmくらい残して切ります。
下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

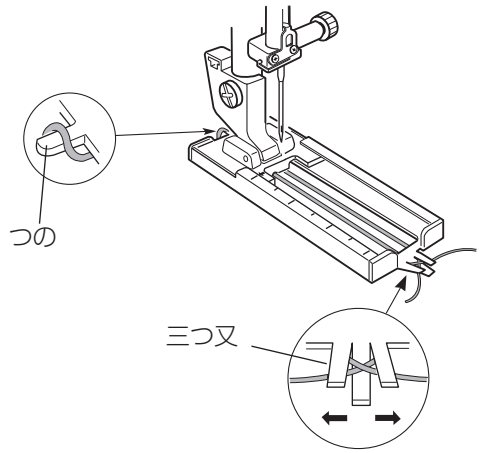
⑦ 片方のかんぬきの内側にまち針をさし、シームリッパーでかがった糸を切らないように中央部分を切りひらきます。

●芯入りボタンホール

ミシンのセット

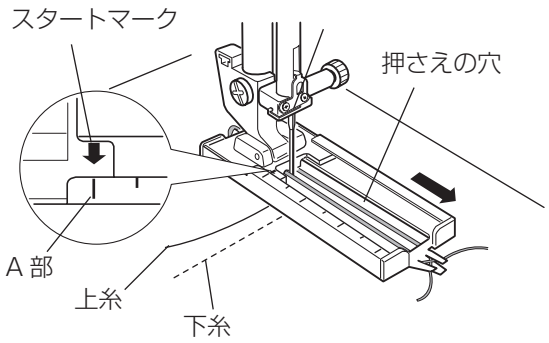


①



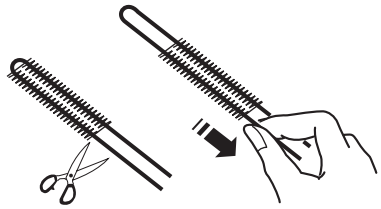
① 芯糸の輪を押さえのうしろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

②



② 上糸を押さえの穴から通して下糸と一緒に横にそろえておきます。
押さえを手前に引きスタートマークを A 部の目盛りに合わせます。
ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。
ミシンをスタートさせて、ボタンホールの手順と同じようにぬいます。

③



③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※ 穴のあけ方は、20 ページをごらんください。

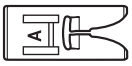
●まつりぬい

ミシンのセット

模様

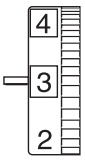


押さえ



A：基本押さえ

糸調子



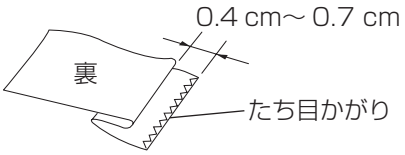
スカートやワンピースなどの裾のまつりができます。

※ 生地と同じ色の糸を使用してください。

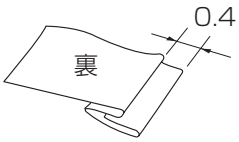
※ 模様  は伸縮性のある布に使用します。

①

（厚い布の場合）



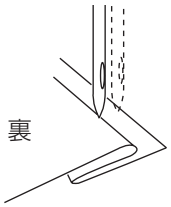
（うすい布、普通の布の場合）



① 布は折るときに裏を表にして下に折り込み、布端を 0.4 cm ～ 0.7 cm ほどはみ出させます。

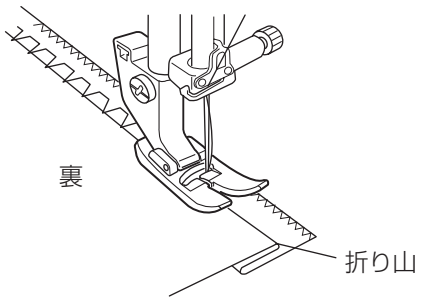
※ ほつれやすい厚い生地は、たち目かがりで布端を処理してください。

②



② 針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押さえ上げをさげます。

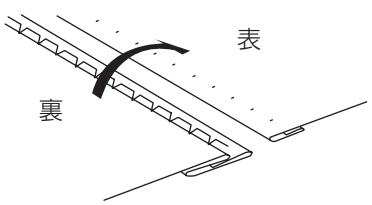
③



③ 針が折り山からはずれないようにぬいます。

※ 左側におりる針が必要以上にかかりすぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりません。

④



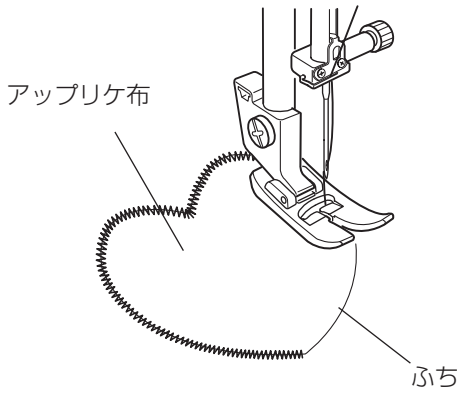
④ ぬい終わったら布を表に返します。

飾りぬい

●アップリケ

ミシンのセット

模様	押さえ	糸調子
幅大 ジグザグ　幅中 ジグザグ	A：基本押さえ	1 ～ 4



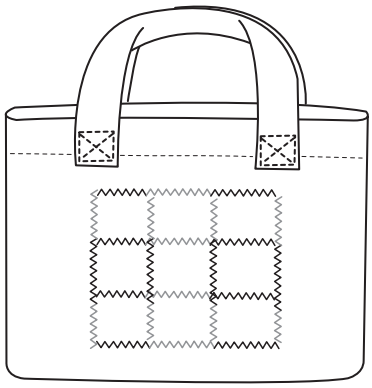
アップリケ布をのりづけするか、しつけで止めます。ジグザグ模様の右側の針位置のときに、アップリケ布の縁の外側にささるようにぬいます。

※ カーブのところや方向転換するところではアップリケ布の外側に針がきた位置でミシンを止めます。
はずみ車を手で手前にまわして針をさげ、針を布にさしたまま押さえ上げをあげて方向をかえると、きれいに仕上がります。

●飾りぬい

ミシンのセット

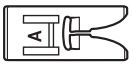
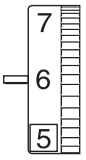
模様	押さえ	糸調子
幅小 ジグザグ	A：基本押さえ	1 ～ 4



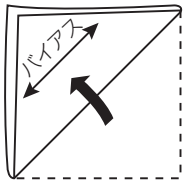
布の裏に芯地を使用すると、きれいに仕上がります。

●シェルタック

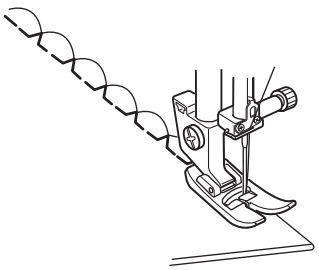
ミシンのセット

模様	押さえ	糸調子
	 A：基本押さえ	6 ～ 8 

①



②



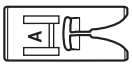
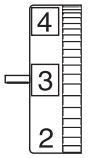
① 布をバイアスに二つ折りにします。

② 針が右にきたとき布の折り山のきわ（布の外側）におりるようにしてぬいます。

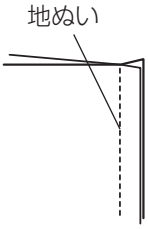
※糸調子は試しぬいをしてシェルタックの山がきれいになるように調節します。

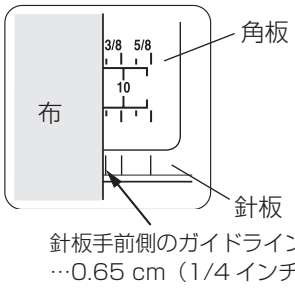
●パッチワーク

ミシンのセット

模様	押さえ	糸調子
	 A：基本押さえ	1 ～ 4 

①

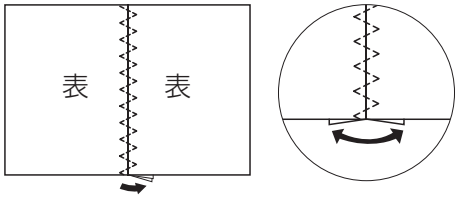




① 布を中表に合わせて地ぬいをし、ぬいしろを割るか、片方にたおします。

※ 地ぬいは、布端を針板の手前側ガイドライン0.65 cm（1/4 インチ）に合わせてぬいます。

②



② 布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

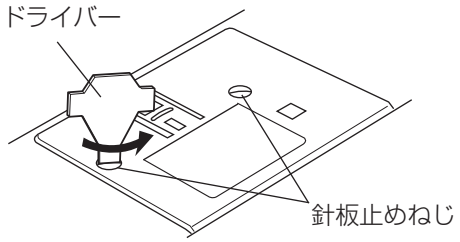
ミシンのお手入れ

●かまと送り歯の掃除

⚠ 注意

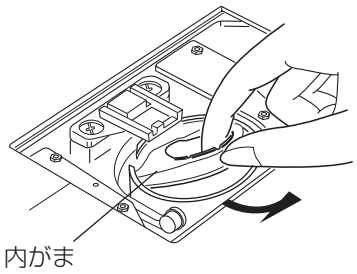
・お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
・説明されている箇所以外は、分解しないでください。
感電、火災、けがの原因となります。

①



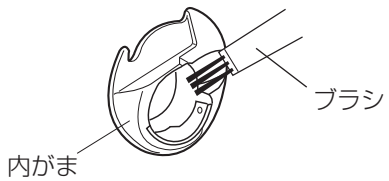
① 針と押さえホルダーを外します。
針板止めねじ２箇所をドライバーで外し、針板を外します。

②



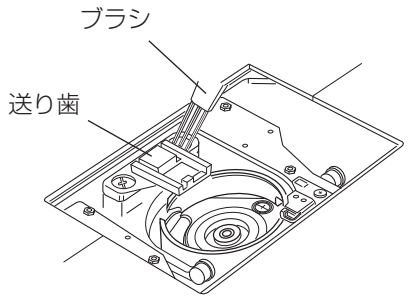
② ボビンを取り出し、内がまの手前を上に引きながら外します。

③



③ 内がまをブラシで掃除し、布切れで軽くふきます。
※ ブラシは標準付属には含まれていません。

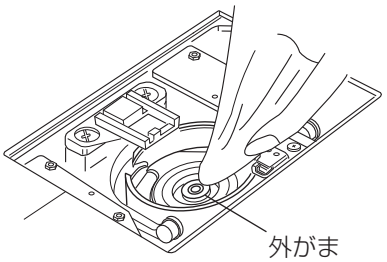
④



④ 送り歯のごみをブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

⑤ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
※ ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸いとってください。

⑤

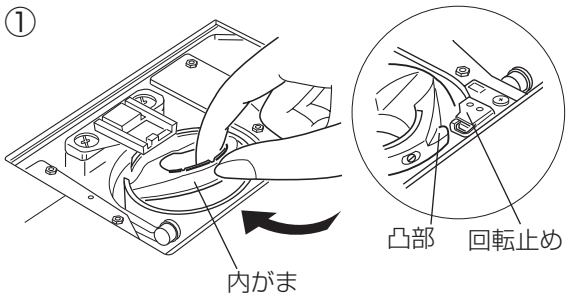


お願い：

- ミシンの使用頻度が高い場合、上記お手入れでは取りのぞけない部分に糸くずやほこりがたまり、ぬい不良の原因となることがあります。使用頻度が高い場合、定期的にミシンの掃除をすることをおすすめします。お買い上げの販売店にご相談ください。
- ミシンへの注油は出荷時に十分行っています。ご自身での注油は行わないでください。
故障の原因となります。

●内がまと針板の組み付け

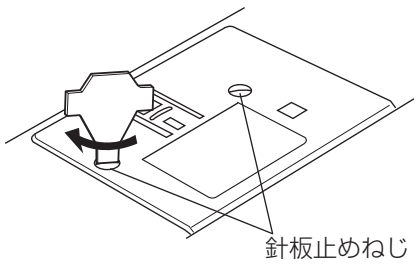
①



① 内がまを外がまに入れます。
内がまの凸部を回転止めの左側におさめるように取り付けます。

※ 内がまを取り付けたあと、はずみ車を手でゆっくり手前にまわし、外がまがスムーズにまわることを確認してください。

②



② ボビンを入れ、針板止めねじをしめます。

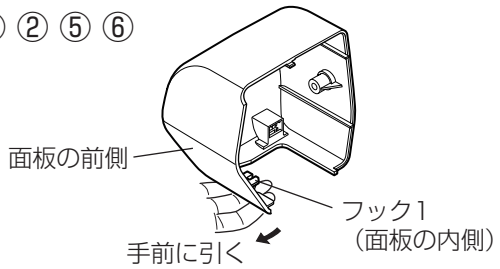
※ お手入れが終わったら、忘れずに針と押さえホルダーを付けてください。

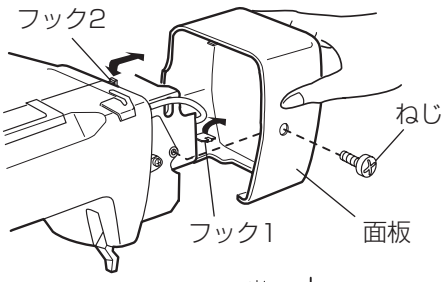
●ランプの交換

⚠ 注意

- ランプを交換するときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- ランプは冷えてから外してください。感電、やけどの原因となります。

① ② ⑤ ⑥







① ねじを外します。

② 2 箇所のフックを外して、面板を取り外します。

（面板の外し方）

面板の前側下を手前に引き、左にスライドさせながらフック1（面板の内側）を外したあと、上に持ちあげるようにフック2から外します。

（面板の付け方）

フック2に取り付けたあと、面板の下側を手前に引き、右にスライドさせ、フック1を取り付け、締めねじで固定します。

③ ランプを左にまわして外します。

④ ランプを右にまわして取り付けます。

⑤ フックを入れ面板を取り付けます。

⑥ ねじで面板を取り付けます。

ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
上糸が切れる	1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の場所にからみついている。	13 ページ参照
	2. 上糸調子が強すぎる。	16 ページ参照
	3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	9 ページ参照
	4. 針の付け方がまちがっている。	9 ページ参照
	5. ぬい始めに上糸、下糸を押さえの下にそろえて引いていない。	17 ページ参照
	6. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。	17 ページ参照
	7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。	9 ページ参照
下糸が切れる	1. 下糸の通し方がまちがっている。	12 ページ参照
	2. 内がまの中にごみがたまっている。	25 ページ参照
	3. ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換する。
針が折れる	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	9 ページ参照
	2. 針止めねじのしめつけがゆるんでいる。	9 ページ参照
	3. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。	17 ページ参照
	4. 布に対して針が細すぎる。	9 ページ参照
ぬい目がとぶ	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	9 ページ参照
	2. 布に対して針と糸が合っていない。	9 ページ参照
	3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（オプション）を使っていない。	9 ページ参照
	4. 上糸のかけ方がまちがっている。	13 ページ参照
	5. 品質の悪い針を使用している。	針を交換する。
ぬい目がしわになる	1. 上糸調子があっていない。	16 ページ参照
	2. 上糸、下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。	12、13 ページ参照
	3. 布に対して針が太すぎる。	9 ページ参照
布送りがうまくいかない	1. 送り歯に糸くずがたまっている。	25 ページ参照
	2. 送り歯があがっていない。	7 ページ参照
ぬい目に輪ができる	1. 上糸調子が弱すぎる。	16 ページ参照
	2. 糸に対して針が細すぎる。	9 ページ参照
ミシンが動かない	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。	6 ページ参照
	2. かまに糸やごみがたまっている。	25 ページ参照
	3. 糸巻き軸が下糸を巻いたあと、もとにもどっていない。（糸巻き状態になっている。）	11 ページ参照
	4. 天びんの根元に糸がからまっている。（天びんに糸がしっかりかかっていない。）	面板を外してからまっている糸をとる。（面板の外し方は「ランプの交換」26ページ参照）
ボタンホールがうまくぬえない	1. 伸縮性のある布のとき、芯地を使っていない。	伸びにくい芯地を貼る。
音が高い	1. かまの部分に糸くずがまき込まれている。	25 ページ参照
	2. 送り歯にごみがたまっている。	25 ページ参照

※ 静かな部屋で使うと「ウィーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モーターから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※ 外観の細い線のように見える部分は、樹脂を形成するときに発生するウェルドラインと呼ばれるものです。場所によっては目立つ場合もありますが、強度上とくに問題はありません。

♧ MEMO ♧

ミシンの疑問やジャノメ最新情報はこちらからご確認できます。

ジャノメ HP
FAQ ページ

ジャノメ公式
Instagram

ジャノメ公式
YouTube チャンネル

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
  ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
  1. 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  2. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  3. お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  4. お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
  5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。
お問い合わせの際には、ミシン本体の正面、もしくは保証書にある商品名を控えてください。

株式会社ジャノメ

住 所　〒 193-0941　東京都八王子市狭間町 1463 番地
電 話　お客様相談室　0120 − 026 − 557（フリーダイヤル）
042 − 661 − 2600
受 付　平日 9：00 ～ 12：00、13：00 ～ 17：00
（土・日・祝日・年末年始を除く）
メールでのお問い合わせは、ホームページ https://www.janome.co.jp
問合せフォームをご利用ください。

仕　様	
使用電圧	100 V　50/60 Hz
消費電力	45 W / ランプ12 W
外形寸法	幅 38.5 cm ×奥行 15.0 cm ×高さ 28.2 cm
質重	5.0 kg（本体）
使用針	HA X 1（家庭用ミシン針）
最高ぬい速度	毎分 755針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。